

佐渡の日再興へ乾杯

5歳の地酒飲み比べ

佐渡の日は、もともと閑散期だった3月に誘客をしようと、観光関係者らが1998年に打ち出した。毎年10日前後に宿泊費や交通費の割引キャンペーンを行っていたが、新型コロナウイルスの影響を受け、多くの事業者が2年連続で実施できていない。

3月10日の「佐渡の日」に、島内5歳の日本酒と食事を楽しむイベント「佐渡の酒を語る会」が、佐渡市原黒のホテルニュー桂で開

原黒

感染禍くじけずに「誘客を」

今回のイベントは、同ホテルのおかみ渡辺てるみさん(63)が、ウイルス禍でも佐渡の日を絶やさないようにしようと企画。新潟市で開催される日本酒飲み比べイベント「いがた酒の陣」尾畑酒造・平島健社長の解説を聞きながら、島内5歳の酒を飲み比べた参加者10日、佐渡市原黒

が中止になった背景もあり、島内の酒蔵に呼び掛け

て実現した。この日は、尾畑酒造(真野新町)の平島健社長(56)が出席し、明治初期まで佐渡には200を超える酒蔵があったという歴史を紹介。会場に並んだ5歳それぞれのお薦めの酒についても解説し、「どの蔵も特徴



のある酒造りをしているので、違いを堪能してほしい」と語った。参加者は、酒の陣のために尾畑酒造が仕込んだ限定酒「真野鶴 大吟醸無濾過

原酒」など5歳の酒を飲み比べ、お座敷舞を觀賞しながら加茂湖のカキやフキノトウの天ぷらなど地元の旬の味覚を味わった。参加した月布施の清田恵

さん(79)は「佐渡の日においておいしい酒と料理が楽しめうれしい。ウイルス収束後のこの日に、また多くの人と出会えるのを楽しみにしている」と話した。